

特産品シリーズ

Special Product Series Vol.54



指宿西方で、造園業を営みながらブーゲンビリアを栽培している「緑隆苑」代表の野間和隆さんの案内でビニールハウスに入ると、赤やピンク、白のブーゲンビリアが、春の日差しを浴びて一面に咲き誇っていた。

ブーゲンビリアの原産地は中央アメリカや南アメリカの熱帯雨林地域で、開花には15℃〜25℃の温度を保つ必要があるという。そのため、一般的にはハウス内の温度を加温機で調節する必要があるが、温暖な指宿では、ハウスの開け閉めだけで大丈夫だという。

情熱的に咲き誇る瞬間へ大切な人へ

野間さんは、祖父の代から続いている家業を24歳の時に継いだ。栽培を始めた頃は多くの苦労があったと話す。ブーゲンビリアは、与える水と肥料が適量でないと、落花したり落葉したりする繊細な植物だという。野間さんは試行錯誤の末に、絶妙な水と肥料の加減を見つけ、花びらと葉のバランスがとれた、理想のブーゲンビリアを生み出すことができた。

さらに、農薬を極力減らした栽培方法の開発にも取り組んだ。「多くの人にブーゲンビリアを楽しんでもらうためには、体に害がないものが一番」と話す野間さんは、アブラムシなどの害虫が嫌う植物を、ブーゲンビリアと一緒に栽培する方法を取り入れ、必要最低限の農薬のみで育てられるようになった。

しかし、平成28年の台風第16号により、一部を残し大半のハウスが倒壊したため、一時は栽培を諦めかけた。それ



でも決して諦めず続けてこられたのは、ブーゲンビリアを心待ちにしているお客さまの存在があったからだという。努力を重ね、困難を乗り越えてきた野間さんは、現在、斑入りや八重咲き、一重咲きなど14種類のブーゲンビリアの栽培に取り組み、道の駅いぶすきで販売している。そして、将来は一級造園施工管理技士の資格を生かし、地元で観光農園を開きたいと、目を輝かせながら話してくれた。ブーゲンビリアの花言葉は「情熱」と「魅力」。

野間さんの愛情で育った、魅力あふれるブーゲンビリアを、大切な人へ贈ってみませんか。

☎ふるさと納税室特産品振興係 ☎2111 ☎147

いぶすきまるごと博物館

vol.180

田の神石像（タノカンサア）は、旧鹿児島藩領である鹿児島県と宮崎県で見られない石造物です。鹿児島藩では、17世紀の終わりから18世紀の初めにかけて、本格的な開田事業が行われ、かんがい用水路・井堰などの大工事によって、大きな水田が次々と作られました。その事業と連動するように、農民によって水田稲作の守護神として、田の神石像が作られたと考えられています。

年号が分かる最古の田の神石像は、さつま町に残されており、宝永2年(1705)に作られています。本市の最古の田の神石像は、山川成川の下原集落にあり、市指定文化財に指定されています。明和8年(1771)に下春(現在の下原)の二才中(15歳から25歳の青年)によって作られたものです。田の神石像を見ると、短い袖の上着にたすきを掛け、下着は裁着袴を着けています。また、右手には小さなめしげ(しゃもじ)、左手には団子のようなものをのせており、均整のとれた安定感のある造りとなっています。市内にはあと30体の田の神石像が報告されており、これに加えて、市内のホテルには20体ほどの石像があります。薩摩半島の南端部には田の神石像は少なく、下原のものは、古い田の神石像の南限を示す重要な資料といえます。

市内の田の神石像は、軟質で加工がやすく、見た目が美しい山川石で作られています。しかし、

下原の田の神石像

なかには、池田大迫で採れる池田石で作られているものがあるとも考えられており、見た目も山川石で作られたものとあまり変わらないため、今後さまざまな分析を進めて、使用石材を明らかにする必要があります。

田の神石像にはさまざまな形があり、もっとも多いのが農民型といわれる石像で、下原の田の神石像もこれにあたります。その他に、神官型、地藏型、僧侶型、女官型、女神、自然石など多くの形が確認されています。その形の豊富さから、稲作に不向きなシラス土壌で懸命に米を作り続けた農民たちの、切なる願いが込められています。

☎歴史文化課文化財係 ☎25100



▲市指定文化財「田の神石像」



▲田の神石像の刻銘

定期シリーズ

観光シリーズ〜光を観せて、魅せられて〜 vol.84 新たな観光スタイル

新型コロナウイルス感染症が世界中にまん延してから1年以上が経過しました。コロナ禍は、私たちの生活を一変させ、マスクの着用やソーシャルディスタンスが日常的になっています。

このような中、観光業界では早くから感染予防に取り組み、消毒液の設置や人と人との接触の機会を減らす対策など、観光客の皆さんが安心して来られるような環境づくりに努めています。

しかし、コロナ禍が収まらない現状において、海外はもちろん、県境を跨ぐ移動は難しく、旅行需要の回復はいまだに見通せません。

一方で、自宅から1〜2時間ほどで行くことができる地元での旅行、いわゆるマイクローツーリズムが脚光を浴びています。

指宿は、人気の温泉地ランキングで常に上位に入る温泉地として全国的に有名です。その指宿温泉の目玉と言えば、砂むし温泉です。世界的にも非常に珍しい温泉で、鹿児島大学の研究により、体に悪影響を及ぼす老廃物を排出するデト

ックス効果は普通の温泉に比べ、3〜4倍の効果があることが実証されています。

指宿にはこの他にも、陸と島が砂の道でつながる知林ヶ島や、九州で最大の大きさを誇る池田湖など自然豊かな観光資源に恵まれています。

コロナ禍以前は遠方の観光地へ出掛けた人も多いと思います。しかし、地元はいつでも行くことができるという心理からか、近場での観光を楽しむ機会は少なかったという人も多いのではないのでしょうか。指宿だけでなく、知覧武家屋敷庭園や釜蓋神社などを訪れてみてはいかがでしょうか。

なお、近場で旅行する際は、あえて人出が少なく感染リスクの少ない早朝や夜間に観光をしてみると新しい発見があって面白いかもしれません。

Withコロナの新しい観光スタイルを皆さんも楽しんでみてください。

☎観光課観光総務係 ☎2111 ☎323

燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会



競技種目・会期決定

2023 特別国民体育大会 特別全国障害者スポーツ大会 指宿市開催競技

2023年

- 10月8日(日)〜10日(火) ソフトボール競技 (成年女子)
- 10月28日(土)〜29日(日) グランドソフトボール競技 (視覚障害者)
- 9月23日(土)〜24日(日) ゲートボール競技 (全種別)
- 10月13日(金)〜16日(月) バドミントン競技 (全種別)

開催場所: 指宿総合体育館、市営陸上競技場、開聞総合グラウンド

令和5年(2023年)に県内で開催される「特別国民体育大会」・「特別全国障害者スポーツ大会」の本市での競技種目・会期・会場が県競技専門委員会と決定しました。2年後の両大会の成功に向け、開催準備を引き続き進めていきます。皆さんの協力をよろしくお願いいたします。

☎燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会 指宿市実行委員会事務局 (ふれあいプラザなのはな館内) ☎21014



市実行委員会 ホームページ